平成 28 年 2 月 14 日
秋田県秋田市第十一支部
すずき健太連合後援会
内部資料

鈴木 健太
県政報告会

Facebook（フェイスブック）活動報告

（2015 年 4 月 13 日～2016 年 2 月 4 日）

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年4月13日 ·

みなさま本当にありがとうございました!!!!
すばらしい仲間たちと、無名の新人だった私に期待してくださった支援者の皆様のおかげです。
この期待の大きさを決して裏切らぬよう、言葉だけではなく行動で恩返ししてまいります□□

県議選の開票結果

自民、全選挙区で議席
改選前1増、過半数維持
県議選

統一地方選

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年4月21日 ·

あれから1週間…
ごあいさつ回りに奔走しつつ、週末には地元太平山三吉神社へお礼に来ました。
鐘にぶら下がろうとする子どもに
止めろ！と怒声をかけながら…_|￣|○

秋田県議会議員　鈴木健太さんは鈴木 健太さんと一緒です — 場所: 秋田県庁

2015年4月21日 ·

自民党県議の新人５人衆、平均年齢43.6才。
秋田をポジティブに変えていきます！

秋田県議会議員　鈴木健太

2015年5月9日 ·

【県議会での所属委員会が内定しました！】
◎常任委員会（必ずどれか一つに所属する、常設の委員会）は、希望どおり『産業観光委員会』に入ることができそうです。任期は２年。議員になってから、情報が格段に得やすくなったのでただ今猛勉強中です。
◎『地方創生戦略調査特別委員会』は、この５月議会において編成される特別委員会（必要に応じて編成される委員会）です。新人ながら勇気を出して手を挙げてみたら、入れていただけました。県は今年度中にこれから５年間で秋田を創生していくための「地方創生戦略」を策定します。この特別委員会は、従来のように行政が作った計画をあとから審査するというだけではなく、内容の検討段階から議員が関与していくものです。これまでにいただいた多くのご意見を、可能な限り反映していけるよう頑張ります！！

常任、特別委の委員内定

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年5月11日 ·

【テレビ放送のお知らせ】
本日18:00からＡＡＢさんのニュースで取りあげていただく予定ですので、ぜひご覧ください。
先ほど家を出るところから辻立ちまで密着取材を受けておりました。
これから初登院。頑張ります！！

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年5月12日 ·

５月臨時議会が終わりました。
新しい議長や委員会所属の決定がメインでした。
初めて県議会の投票箱に１票を投じましたが、たくさんの県民の皆様の思いを乗せている、その重さを痛感した一瞬でした。

合わせて一般会計補正予算が全会一致で可決。
約9,400万円上乗せされ総額6,015億あまりとなりました。

金額的に大きかったのは、田沢湖スキー場モーグルコースのジャッジハウス（審判棟）建設で約8,024万円。
なんとスキー場の構成上、ジャッジハウスを常設できるのは国内で同スキー場だけとのことで、県は2016W杯開催と合わせて「モーグルの聖地」を目指す決意です。

強点に資源を集中する。
閉塞的な状況を破るための鉄則だと思います。

秋田県議会議員　鈴木健太さんは秋田市文化会館にいます
2015年5月20日 ·

【TPP国会決議の遵守を求める秋田県代表者集会】
お茶の間で新聞読みながら農業改革を語るのは簡単ですが、現実には多くの方々の人生が乗っかっている問題です。
党派を超えた県議たちとともにしっかり話を聞いております。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年5月21日 ·

【地方創生に関する委員会】
総合戦略の骨子案について説明を受け、私も次のように発言・要望しました。
（要旨ですが）

①内容が堅くて難しく、若い人に響く気がしません。書きぶりはともかくとして、産業・雇用などの硬質なテーマだけではなく、若い世代がおもしろい、秋田もアリだ！と思ってもらえるような「秋田の若者にとっての魅力化」といったソフトな項目も追加してください。みなさんも18歳の頃は、気になる異性や芸能人のことしか頭になかったことを思い出してください。

②3月~4月と「各分野の若手関係者との意見交換」「地方創生ワークショップ」が開かれていたようですが、私は知りませんでした。どのような広報、募集をしましたか？←各部署等からの推薦・一部公募とのことでしたので、より開かれた、偏りのない人選でやってくださいとお願いしました。私からも案内しますので、ぜひご参加ください。

③10月に策定される予定の「人口ビジョン」「総合戦略」に、ぜひ数値目標として「県人口」と「県出生数」を明示してください。行政として掲げにくい部分もあるかもしれませんが、今回はラストチャンスだとの認識で目標を明らかにし、それに向かって一致団結して皆で努力することを願います。

言いたいことは言いましたが、発言するときは挙手のうえ「委員長」と許可を得るように！と注意を受けました(*_*;　すみませんでした。

秋田県議会議員　鈴木健太さんは鈴木 健太さんと一緒です — 場所: 秋田駅
2015年6月2日 ·

議員として初めての県外出張です。
宮古～盛岡～秋田の横軸連携について勉強してまいります。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年6月6日

【平和安全法制について街頭演説します！】
6月7日（日）自民党青年局全国一斉街頭行動
09：20〜09：50　仁井田「斉勇(株)」さん前
10：00〜10：30　エリアなかいち　にぎわい広場

私も弁士の一人として、平和安全法制について思うところを思い切り話させていただきます。ぜひ聞きに来てください！
※写真はイメージです。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年6月7日

【一斉街頭終わりました】
立ち止まってお話を聞いてくださった皆さん、手を振ってくださった皆さん、ありがとうございました！
思うことをかなり自由にお話させていただきました。内容は後ほど掲載します。

秋田県議会議員　鈴木健太
2016年6月7日

【本日の演説内容】
思い出しながらなので字句は違うかもしれませんが、だいたい以下のようなことをお話ししました。長いのでご興味のある方はどうぞ・・・

頂いたお時間は限られておりますので、3点に整理してお話しします。

まず1点目は、安倍総理、政府、自民党、この中に戦争がしたいと思っている者は一人もいないということを、皆様にはぜひご理解いただきたいということです。戦争なんかしたって誰も得しません。尊い自衛官や国民の生命が失われる、そんなことを望んでいる人は一人として存在するわけがありません。軍需産業が儲かるからだろう、そんなことを言う方もいらっしゃいますが、妄想です。そんな経済的利益のために大切な国民の生命を犠牲にするような、そんなことを考える人は安倍総理以下自民党にはおりません。一部のメディアや反対派の方々の中には、安倍総理は戦争がしたいのだ、日本を戦争のできる国にしようとしているのだというような論調で語る向きもあります。しかし賢明な秋田県民の皆様にぜひわかっていただきたいのは、戦争をしたくない、日本の平和をこの先もずっと守っていきたいという目標は与野党問わず共通なのだということです。ただそれを実現するための方法論と、国際社会の現実に対する考え方が違うから、今国会で激しく議論がされているのです。どうか皆様、今盛んに言われているような、戦争をしたい自民党と戦争をしたくない反対派という、短絡的なイメージづくりに惑わされないようにお願いをいたします。私たち自民党は、大真面目にこの日本の平和と安全を将来にわたってどうやったら守れるのか、それを考え抜いた結果提案させていただいているのが、今の平和安全法制なのでございます。

またこの法案に反対される方々は、将来わが国が暴走して戦争するかもしれないというようなことをおっしゃいますが、そのようなことは決してありません。戦前とは民主主義制度が全く異なるのです。政治とカネの問題で政権が転覆するほど民主主義が機能しているこの日本で、ある政権が勝手に戦争を始めることなどできるわけがないのです。もし将来自民党が「これから日本は侵略を始めます」などと言い始めたならば、どうぞ選挙で政権を交代させてください。私もそんな自民党で頑張るつもりはありませんが。

それではなぜ、せっかく戦後70年間守ってきたこの平和のための制度を今、変えなければならないのか。ここからが2点目ですが、これは残念ながら、今の国際社会では、一国のみの力で平和を守っていくことができる、そんな時代はとっくに終わりを告げているということです。特に日本のような、世界中の国々から物を買い、売りながら成り立っている経済大国が、遠い所の国々の紛争に対し目をつぶり、耳をふさいで不干渉を貫きながら自国の平和のみを実現していくことなど、もはや絶対にできないのです。

日本に原油が来なくなると、人命が失われます。油が来なければ電気を作れない。皆様も4年前東日本大震災で経験されたとおり、電気がなければ病院の医療機器も動かないし、ガソリンがないと車を動かせず食料などの物資も来ない。長引けば農業生産も停止します。つまり日本の平和と安全は、原油によってかなりの部分守られていると言っても過言ではありません。「地球の裏側まで自衛官を送るなどけしからん」という方々は、油を使わないで暮らしてみて頂きたい。日本が輸入する原油は80%以上が湾岸諸国から来ております。ペルシャ湾の出口、ホルムズ海峡から出てインド洋、マラッカ海峡を経て南シナ海、東シナ海を通りやっと日本にたどり着くのです。中東ではイスラム国がイラクの首都バグダードに迫っている。南シナ海では中国が盛んに埋め立てをしております。もはや数日前には、この空港建設は軍事目的であることすら明らかにしました。シーレーン、つまり海上輸送路上の制空権を、日本に敵対する可能性のある国が握ってしまったらどうなるでしょうか。湾岸の産油国からシーレーンを通じてたくさん原油を輸入し、便利な生活を享受している以上、それらの地域の平和と安定に対し、しっかりと責任を果たていくのは当然のことだと私は思います。

それでは当の自衛官たちはどう考えているのか。これが3点目です。今、海外に派遣される自衛官のリスクは高まるとか高まらないとかいう議論がされていますが、私は正直申しまして、そんなくだらない論戦は止めて頂きたいと思っています。自衛官は一隊員にいたるまで、入隊時に宣誓をしております。事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託にこたえることを誓います、と。初めから普通よりもリスクの高い仕事をするのだというつもりで入隊した人たちです。なぜそんな危険なことをしなければならないのか。これは消防隊員さんなども同じですが、守らなければならない人々がいるからです。民間人のみなさん、女性、子供、お年寄り。こうした守るべき方々に、より大きなリスクが及ばないように、自分たちがリスクを負って任務を遂行するのです。自衛官は任務に対して、リスクが高いからいやだとか行きたくないとか言いません。ただ一言だけ本音を言わせてもらうとすれば、行かせる以上はきちんとした環境を整備していただきたい、ということです。私は陸上自衛官として東ティモールとイラクに派遣されました。東ティモールでは豪軍に、イラクのサマワ宿営地では当初オランダ軍、のちにまた豪軍に守ってもらっていました。多国籍部隊の中で、あれだけの経済力をもつ一流国なのになぜ？という違和感があったのは確かです。そして自らの身を守るための武器使用についても、他国軍にはない制約を課せられながら自衛隊は活動していたのです。わが国の平和と安全のために、危険を承知で任務に向かって下さる自衛官のためにも、私たちはきちんとした法整備をし、任務遂行のための十分な条件を整えて送り出してやらなければなりません。そのための、今回提案させていただいている平和安全法制なのであります。

70年間日本の平和と安全を守り続けてきたこれまでの制度を大きく変える法改正です。私たち自民党も、さらに丁寧な説明、慎重な手続きに努めなければなりません。どうか秋田県民の皆様におかれましては、一部メディアや反対派の方々による、安倍は戦争がしたいんだ、戦争をできるようにするための戦争法案なのだという短絡的なイメージ戦略に惑わされることなく、冷静にかつ現実的にこの議論を見守っていただけるようお願い申し上げまして、私のお話を終えたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年6月16日

【地方創生に関する調査特別委員会】
本日から6月議会が始まりました。
初日は知事説明と2件の表決のほか、午後からは地方創生に関する調査特別委員会（第4回）が開かれました。
10月の「秋田版総合戦略」の策定へ向け、県当局からの説明を受けた後に質疑があり、私も以下のように発言しました。

①経済的な子育て支援は長期的に
　県の予算は単年度、総合戦略は5年計画ですが、子供を生み育てるのは20年計画です。保育費・医療費補助は15年先、奨学金の返還免除は20年先まで続けてくれるという信頼があって初めて「じゃあもう一人」という意思決定ができます。子供をふやすというのが政策目的なのであれば、財源的な制約を何とか克服してでも「15年先まで必ず支援します」という約束をしなければ効果は出ないと思います。

②空き家を子育て世代に
　（県の素案では子育て住宅支援が「住宅リフォーム支援」でしかなかったので）本当に住宅支援が必要なのはアパート住まいの子育て世帯です。住宅ローンを組めない世帯にこそ、子育てに適した安価な住宅を供給すべきではないでしょうか。素案では空き家を移住者向けに活用するとなっていますが、子育て世帯にも活用してもらいたいです。3人以上の子供をアパートで育てるのは本当に大変なのです。ということで、選挙前から私が提案していた「空き家の子育て世帯への提供」を提案しました。

　特に②は、私が提案したところ、会派問わず他の先生方が強力に援護してくれました。私自身は言葉もうまく出てこないしカミカミだったのですが、先輩議員の皆さんが私の言いたかった3倍くらい強硬にしゃべってくださり大変ありがたかったです。やはりしゃべりのプロだなあ、と妙なところに感心してしまいました。
　これから夏ころまで具体的なアイデアを戦略に繁栄させていくチャンスがあるので、暖めてあるものをどんどん出していくつもりです。みなさんも秋田を変えうるアイデアがあれば、私に教えてください。可能な限り反映したいと思います。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年6月18日

【議員はいつも何をしているのか？】
私もしばらく謎でしたが、なってみて2か月でなんとなくわかってきました。

議会では本会議、各種委員会や会派の会議など様々な集まりがあります。とはいえ、会期中も毎日ずっとそれらに拘束されているわけではなくて、何もない日も意外とあります。
そんな日は、それぞれの議員によって行動が違います。多いのはおそらく地元で様々な会合に顔を出すこと、そして政策の調査や質問など議員活動のための準備でしょうか。

私は来週の一般質問に向けて作業中です。写真は会派の控室で、人数が多いものですからご覧のような大部屋。このときはたまたま誰も来ていなかったので、一人で作文をしていました。

「会合に顔を出す」ことは、とても大事です。これはたくさんの県民と会い、皆さんの状況やご意見を頭に入れる作業だからです。私はこれまで、政治家がいろいろなところに顔を出すのは人気取りだと思っていました。でもそうではありませんでした（そういう意味合いが全くないわけではないですが）。県民の意見を背負うということが議員の理論武装なのです。過去の経緯も詳しい現状もなんでも知っている県職員さんたちに対して、「いやいや、一般県民はこう言ってるんですよ。」と言えることが議員の一番の強み。だからできる限り多くの人と会って話をするのが仕事なんだな、ということが最近になってわかりました。

さて、初めての一般質問の内容もほぼ固まりました。
来週24日(水)13：30からです、ぜひ傍聴にきてください！

秋田県議会議員　鈴木健太さんは鈴木 健太さんと一緒です

2015年6月19日

県議会を傍聴してみませんか？

6月24日(水)13:30～@秋田県議会
私、すずき健太が初めての『一般質問』に臨みます。30分くらい佐竹知事に言いたいことを言わせていただくのです。若い世代は秋田がこのままでよいとは全く思っていないことを熱く語ります。
無料・予約不要
☆写真はイメージです。

①知事の変革への決意について
②出生者数の目標について
③新たな文化施設について
④マタギ文化の活用について
⑤自衛隊機の秋田空港の使用について

秋田県議会議員　鈴木健太

2015年6月30日

【一般質問の全文①】
投稿すべきことが溜まっておりますので順番に・・・
まずは先日の一般質問の全文を掲載します。
長すぎるので分けます。

本日は、議員になってまだ間もないこの私に、一般質問の機会を与えて頂きましたことにまずは心より感謝申し上げます。県民の皆様、佐竹知事をはじめ県職員の皆様そして先輩議員の皆様、私は若輩者ではありますが、これから真摯に勉強をし、秋田県のために一生懸命頑張ってまいりますのでどうかご指導をよろしくお願いいたします。

私は二か月前まで議員ではありませんでした。それまで政治とは全く縁がなく、また行政マンとしての経験もありません。そのような私が一般質問をさせて頂く以上、これまでに知り合った地域の皆さんや子育て世代の皆さん、あるいは経営者といった、いわゆる普通の県民とと同じ感覚で抱いていた素朴な疑問を、そのまま素直にぶつけさせていただきたいと思います。言葉の足りないところなどあるかもしれませんが、そこは一つ若気の至りということで何とぞご容赦いただければ幸いに存じます。それでは質問に入らせていただきます。

まず初めに、知事の変革への決意について確認をさせていただきます。

少子高齢化、経済低迷により秋田県はいま、危機的な状況にあります。統計に表れている各種指標のみならず、私たちの生活の実感からもそれは間違いありません。私たちやさらに若い世代は、まじめに一生懸命働いても所得が低く、秋田にいても豊かになれないから県外へ出ていく、また秋田に残ったとしてもお金がないから結婚しない、そして結婚してもやはりお金がないから子供を作れない、これが実情であります。そして何よりも私が憂いているのは、この秋田では、将来への希望が持てないということです。

知事はじめ団塊の世代の皆さんは、戦後の大変な時代に生まれ、小さい頃苦労されたことと思います。それを見事に乗り越え、そこから頑張って、今日の豊かな日本を築き上げてくださいました。私は団塊ジュニア世代として、心よりそのことに感謝をし、また敬意を抱いております。

団塊世代の皆さんが死にもの狂いで頑張っていたその時代、この国の雰囲気はどのような感じだったでしょうか。人口はどんどん増える、立派な建物は建ち始める、経済規模は拡大する。世の中はよくなっていくばかりという雰囲気だったのではないでしょうか。

今の秋田とは正反対です。人口は減り、学校は統廃合され、空き家が増え、会社の売り上げは下がる一方。ずっとこのような経済・社会環境の下で育った今の子どもたちが、仕事へ前向きにチャレンジをする、安心して家庭をもち、子供を増やすという決断をなかなかできないということは、

無理もないのかもしれません。こんな秋田でどうせ商売が上手くいくわけがない、子供をつくっても幸せにできそうな気もしない。まずこの悲観的なマインドを変えていかなければなりません！

そのためには、やはり行政サイドからも、この秋田の変革の可能性を感じさせる必要があります。ついに秋田は変わるかもしれない、そんな期待感を県民の皆さんに抱かせていただきたいのです。

若い世代だけではなく、高齢者の皆さんの中にも、秋田は変わらねばならないとお思いの方はたくさんいらっしゃいます。そもそも社会保障制度をはじめ、現状の生活レベルを維持することすら、かなりの変革を断行しなければかなわない状況になっているのです。私が今、この秋田をみて一番気になっているのは、人口減少はもう仕方がないのだ、減るなら減ったで、いろんなものを整理縮小して細々とやっていけばよい、そんな一種あきらめの空気を感じることです。しかしそのような選択を私たちの世代が受け入れることはできません。支える現役世代と支えられる高齢者世代の人口が拮抗するような、そんな社会で私は老後を送りたくありませんし、子どもたちを働かせたくはありません。さらに地方が疲弊し、国としての人口減少に歯止めがかからないままだと、将来的には国の平和と安定すら脅かされることになります。

ここで知事にお願いです。どうか子供たち、将来の世代に、秋田の未来は明るいと感じさせてください。そのためにはまず、秋田はこれから本当に変わっていくのだというメッセージが必要です。その変革への知事の決意についてお聞かせください。

（つづく）

秋田県議会議員　鈴木健太

2015年7月19日

【仙北市国家戦略特区に期待です！】

ざっくり言うと、

①外国人医師の診療を認めて玉川温泉を湯治型の医療ツーリズムの聖地に

②国立公園での放牧を認め、スペインなどと同じく森林内で放牧した豚で本場の生ハムを生産する

（他にもたくさんありますがほんの一例です）

などなど、この角館・田沢湖・玉川温泉などを擁する仙北市が、地方創生特区の第1弾として認定されています。3月にニュースになり、実は私もよかったね～程度に感じていたのですが、これはすごいことです。

本日ここの視察で平内閣府副大臣、小泉進次郎政務官が訪れ、仙北市主催のシンポジウムには仙北市ファンの中尾彬・池波志乃夫妻と岸博幸教授などビッグネームが参加。口々に仙北市の大きな可能性（同時になんで今まで活用されなかったのかという感想も・・）を語られ、集まった市民の皆様に夢を与えてくれました。仙北市長の強烈なリーダーシップと市民の奮起により、この町の大躍進とひいては秋田の発展を確信させられた一日でした！

秋田県議会議員　鈴木健太さんが4 new photosを追加しました
— 友達: 鈴木 雄大さん、他2人
2015年7月25日

【県外視察報告②金沢卯辰山工芸工房】（23日朝）

金沢の優れた伝統工芸の継承発展と文化振興を図るため、平成元年に設立された工芸の総合機関。工芸技術研修者の養成と作品の展示、市民対象の体験教室の開催などを行っています。しかも陶芸、漆芸、染、金工、ガラスの5分野そろっているのが特徴で、研修生は全国公募で選ばれた上級者ばかりで定員31名の少数精鋭。

なぜかこれが地方創生委員会の視察対象となったかというと、県内外から集まったここの修了生の半数以上が金沢市と周辺に定住し工芸家として生活しているからでしょう。「アートで町おこし」と聞くと個人的には儲け度外視というイメージがありますが、こちらの方々は完全にプロ仕様。そもそも美大出の方がさらに技を磨くために門をたたくレベルのところで、研修費無料・月10万円の手当つき（材料や旅費で消えるそうですが）に加えて作品の販売や個展等の収入で在学中から自活しています。

そして私が最も感心したのは、修了後にも地元で工芸家として食べていけるように販売の場を創出したり、高価な窯など個人で準備できないものを共用できるよう整備したりと、ちゃんと金沢市が最後まで面倒をみる姿勢を持っていることでした。出口戦略まで考えている、この本気度が大事だと思います。教えたら教えっぱなしで後は自分で頑張れ、という態度では、この施設はここまで存続・発展しなかったでしょう。みなさん生活があって初めて続けられるわけですからね。

そして今でこそ「卯辰山工芸工房出身」は一つのステイタスにまでなっていますが、やっぱり初めはそうではなかったそうです。「当初のネームバリューなき状態から脱皮できた要因は何だと思いますか？」との問いには、「時間です。」と簡潔な回答。地道に時間をかけて、賛否両論あったであろう中でも「できる」と信じて頑張り続けた結果だということでしょうか。

秋田にも美術大学があります。「金沢は伝統工芸のメッカだから」「金沢は大都市だから（といっても人口45万）」・・・秋田とは違うんだ、と言いたくなる点はたくさんあるけど、それって本当に致命的な障害かなあ？と感じることの多い視察でした。

（つづく）

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真3件を追加しました
— 場所: 川原毛地獄の近く
2015年8月10日 · Akita 秋田県 湯沢市(日本) ·

今日は朝から地熱発電関連の新技術を視察に来ました。
ゼロから自力で大きなことに挑んでいる人を見ると、無条件で応援したくなります…

秋田県議会議員　鈴木健太さんが9 new photosを追加しました
2015年6月29日

【県内視察報告】
今日までの3日間、産業観光委員会の県内調査（県北）へ行ってまいりました。約2日半で13か所を回るという強行軍で内容も多すぎるので、かいつまんで報告いたします。

①十和田ホテル
　来年で指定管理期間が満了。これまで完全利用料金制（県からの補助金なしで自立採算のこと）で黒字を達成しています。もともと外国人観光客むけに昭和１４年オープンしたもので、宮大工８０名、天然秋田杉の巨木をふんだんに使用した豪華絢爛なつくり。台湾系の外国人観光客も少しずつみられるようですが、wi-fiの整備や継続的な誘客など課題もさまざま。しかし北東北３県での連携は確実に進んでいることを確認。

②小坂鉄道レールパーク
　昨年６月のオープン以来目標を大きく上回る来場者となっている注目の施設。小坂～大館間を結ぶ東北初の私鉄路線として、明治４２年から平成６年まで活躍した小坂鉄道をミニテーマパークにしました。ディーゼル機関車の運転体験は初級と上級？とあり、特に上級は半日の座学もある本格的なもので愛好家に人気があります。なんと九州からもお客さんが来るそうで、まさに地域資源の活用による地方創生の好事例といえます。引退した特急「あけぼの」の宿泊施設転用は、町議会に今週ストップをかけられたようですが・・・大局的に判断してほしいものですね。

③八幡平オートキャンプ場
　業績不振で今春から閉鎖されているこの施設、存続すべきか否か現地を見てまいりました。正直言って・・・全国屈指の規模なだけに、改修・再利用するにもかなりの費用がかかるのは間違いない。ちなみに当初事業費は18億円、開業当初はかなり賑わっていたようですが、時代の変化に対応できず残念な結果に。今計画されている事業も、長く厳しい目でみて進めなければならないと再認識させられました。

④鹿角市文化の杜交流館「コモッセ」
　駅前中心地に７００席の文化ホール、講堂や会議室、市立図書館、喫茶店やこどもセンターを集約した拠点施設。平日の夕方でしたが、高齢者はもちろん、子連れの父さんや中高生など幅広い市民の姿が見られ、にぎわい創出という意味ではうまくいっているように感じられました。やはり立地が良くて「用事がある」のが必須要因ですよね・・・美術館にはそう頻繁にいきませんから。秋田市街地にできる施設にも、親子連れや学生が自然と行きたくなる機能を備えるよう進言したいと思います。

⑤ドローン事業参入企業

北東北でいち早く同事業を手掛けている東光鉄工株式会社を視察。関東の企業と業務提携し、農薬散布や測量観測用のドローンを製作・販売している会社です。カメラ付きの簡易な趣味用ドローンは約１０万円・・・操作もたいへん簡単そうでちょっとほしくなりますね、使い道はあまりないですが。

⑥秋田内陸縦貫鉄道

２７年度上半期も利用者数の低迷はとまりませんでした。しかし定期客数の増加、秋田市発着バスによる紅葉狩り内陸線ツアー完売など明るい要素も・・・昨年就任された民間出身社長の手腕に期待したいところです。私も選挙前より言っていた「マタギ鉄道」構想をどうすれば実現できるのかと思って話を聞きましたが、現場に行くとたいていは「思った以上にあれこれトライして頑張っている」実情を目にするわけです。内陸線だけから見える田んぼアート、季節のラッピング車両、お座敷列車、桜シーズンはＪＲに直接乗り入れ角館～弘前を同日に花見できる企画など、かなり楽しい。もっと周知できればお客さんは増えると思います。でもマタギは絶対いいと思うな・・・（笑）ちなみに車内アナウンスは日英中の３カ国語でした。

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真5件を追加しました
— 佐々木 正勝さんと一緒です。
2015年8月31日・

クルーズ船受け入れミッションまもなく完了。
総括はこれからですが、目覚ましい進歩が見られたのは間違いないと思います。
・上陸の受け入れ業務
・英語での観光案内
・市中心部へのピストン輸送
・地元商店との連携
・美術館や店舗の営業時間繰上げ
などなど。
関係者のみなさん、本当にお疲れ様でしたm(_ _)m

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年9月7日

【県政報告会やります】
なるべくわかりやすい県政報告を心がけますので
ぜひおいでください！
９月８日（火）　いーぱる（旧東部公民館）
９月14日（月）　羽川公民館（下浜）
９月15日（火）　日吉神社会館（新屋）
各日１７：００～１８：００
飲食ナシ、無料、予約不要です。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年9月25日

【駐車場に質問集中～新文化施設～】
９月議会の産業観光委員会、２日目が終わりました。県・市共同の文化施設が議題となり、やっぱりというか、「駐車場」（大町ニューシティ跡地を知事が提案中）について多くの意見が出ました。私の発言は以下のとおりです。

①公共事業とはいえ、県民の満足度を上げるためには商売と同じような感覚で、つまりお客さんの要求をどこまでも満たすんだという姿勢が必要だと思います。そう考えると、大町の商業施設跡地はさすがにナシでしょう。雨の日も雪の日もあるのに、誰があそこに停めて６００m歩きますか？文化施設についてはいろいろな意見が出ていますが、私の周りに駐車場があそこでよいという人はいません。

②一つの提案として、穴門の堀が１７，７００㎡ほどあって市有地です。このうち景観にほとんど影響のない和洋女子高側の部分を、埋めるか水面上を使って駐車場を整備できないでしょうか。その部分だけで約４，５００㎡、２階建て３層の立体駐車場でも建てれば４００～５００台分確保できます。費用も大きくはならないし、連絡通路で施設に直結すると吹雪のときもＯＫですがいかがでしょう。

ところが・・・
やはり「お堀を埋める」ことへの抵抗感が強いようで、県当局や他の議員から反対意見が出ました。お堀は遺構であり、それを使うことにはかなりの抵抗が予想されるとのことです。私は正直、お堀ばたにふつうの校舎が立っている時点で文化的価値も何もないと思うのですが・・・もちろん広小路側の見える部分はすばらしいので残すのですよ。

その他にも産業会館跡地、木ノ内駐車場（営業中なのですが・・）など様々な意見が出ましたが、知事提案の場所でよいという意見はありませんでした。県当局側は本気で「駅より近いんだし歩けるでしょう」と考えているようだったので、それは閉会後の世間話で強力に否定させていただきました・・・

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年10月3日

【地方創生委員会おわりました。】
　昨日、約５か月・１６回にわたる特別委員会の協議が終わりました。今日のさきがけ朝刊にも概要が載っていますが、以下私なりにまとめます。

　向こう５年間でこの秋田を創生する！という県の総合戦略に関与していくこの委員会、私も意気込んで参加しましたが・・・
①委員会で発言→
②他議員の賛同を得る→
③委員会の「提言」に載せる→
④県執行部を動かして施策を実現する

のうち、③までは行くのですが、④にすることの難しさを痛感しました。立ちはだかる壁は主に財源、規制、公平性です。厳しい財政状況から公金をねん出したり、何らかの理由あって決められている規制を外すには強い説得力が必要です。あと「公平性」には納得がいかないのですが、いかに合理的で効果が期待できそうな事業でも、ごく限られた人にだけ恩恵が与えられることを行政は嫌います。

　私もさまざま準備をして具体策を提案しましたが、実際に④まで行ったのは「空き家の子育て世帯への活用」くらいでした。しかもかなり形は変わってですが・・・つまり、「街中の空き家を自治体が取得して改修、子育て世帯へ有利な条件で賃貸して一定期間賃料を回収すればそのまま譲渡」という施策でしたが、「子育て世帯が空き家を取得してリフォームする場合の改修費支援強化」にとどまりました。空き家を移住者向けにのみ考えていた執行部案に対して、まずは県内在住の子育て世帯に対して振り向けるべきであると主張し、先輩議員の皆さんも加勢して下さり、このような形に何とかなりました。

　③の提言にはかなり多くの意見を載せて頂きました。現在まだ施策として実現していませんが、これは委員会の総意ということで今後の議員活動の中で粘り強く頑張っていきます。まだまだ勉強が必要です。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年11月4日

【明日、総括質疑に立ちます】
11月5日おそらく13時すぎ～14時の間くらいになりますが、決算特別委員会の「総括審査」の機会をいただきました。これは執行部に対して一問一答方式で質問するもので、私には回答時間を含まず10分間が与えられました。
テーマは
①「英語教育の活用について」と
②「国内便の利活用について」です。

①では、教えて終わり、または英検取らせて終わりの英語教育ではなく、実際に街角で外国人に道案内ができたりお店で物を売ったりできる、もしくは海外取引の現場で本当に役立ち、企業や県の利益に本気でつながるような英語教育を求めます。
②では、ＦＢでもたびたび論じられております「国内の国際ハブ空港との定期便」を、インバウンド促進の現実的方策として目指していくことを提案します。

一般傍聴も可能ですのでぜひおいでください。議会棟の1階、特別委員会室です。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年11月8日

【総括審査を終えて】
短くまとめても長くなってしまいました。すみません。

①英語教育の活用
　机上の学習のみでは目の前の外国人と向き合えないので、より実践的なコミュニケーション教育を強化すべきと提案したことに対し、小中高生を対象としたイングリッシュキャンプやＡＬＴによるネイティブ英語教育など、昨年から「あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業」を進めているとの回答でした。結果が目に見えるまでは時間を要するでしょうが、少なくとも私たち世代にはなかった教育なので継続して見守っていきたいです。そしてさらに、街頭で外国人に道案内ができる、商店で外国人に対応できる、などの実地に即した英語教育に力を入れてほしいと要望しました。

　そして産業英語について。航空機産業の促進、海外取引の拡大やインバウンド強化など世界に目を向けた産業構造をめざす以上は、それぞれの業種に即した語学支援が不可欠だ、たとえばNadcap（航空宇宙産業における国際認証制度）の資料や提出書類を英文で作成する講座とか、商店での英語POPの作成講座とか、どんな業種でも必ずぶつかる「語学の壁」を産官民一体となって乗り越えていく具体的取組を求めました。現状では産業技術センターに技術英語要員が２名おり要望に応じて翻訳支援などに従事しているそうですが、やはり自社スタッフの（業界専門的）英語力を高めていくことも同時に進める必要があるでしょう。片言でも通訳ナシで意思疎通できる効果は小さくありません。そういう会社が増えれば、東京やAIUでハイレベルな教育を受けた人材の活躍の場も増えてくるというものです。

②国内便の利活用
　韓国便にせよ台湾便にせよ、国際直行便で必ず直面する問題が「日本人乗客の不足」です。県人口103万人、昨年海外へ出た人数34,000人あまり。立地からして他県からの利用客も期待できない以上、この「でかけない県民」によって特定国の特定の一都市に定期便を維持するのは至難の業ではないでしょうか・・・それよりも成田または関空などに秋田便を整備する方が、東京や関西へすでに多数来ている外国人を第二の目的地として秋田へ誘う現実的な道ではないか、と提案しました。

　回答は予想どおりでしたが、今は韓国、台湾、タイへ集中的にセールスをかけており、また羽田便もよく利用されている、ムニャムニャ・・ということで後ろ向きでした。時間オーバーで注意されながらでしたが(^^;)、台湾の人口2400万人でリピーター率はいくらですか？一国に依存するリスクは考えていますか？などと食い下がりましたが・・・

10分の持ち時間はあっという間でした。
来週にも録画中継がＵＰされたらリンクを貼ります。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年11月6日

【早とちりのお詫びと訂正】
　先日書き込んだ「地方創生交付金額が全国最下位だった件」について、誤報ではないのですが重大な早とちりがありましたので秋田県庁の名誉のために報告しておきます。

　この度交付された236億円ほどはすでに交付済みの約1400億円の残りの部分だったわけですが、実は交付済みの分について秋田県は15億円（全国第4位）、県内市町村合計でも15億円（全国24位）のトータルで全国15位と、けっこう健闘していたということが今日の総括審査で明らかになりました。県の分15億円は平成26年度2月補正予算に算入され、移住促進、企業誘致、海外誘客など43の事業に使われております。すでに必要な事業にはかなり予算取りできていたために今回の分ではさほどもらえなかった、というのが真相でした。

　経緯をよく確認しないで書いてしまいました。県庁の皆さん申し訳ございません。予算取ったからＯＫ！ではないのですが、短絡的な批判は慎まねばなりませんね。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年11月9日 ·

本日19時より、秋田大学手形キャンパスで秋田JC主催の『あきた未来会議』が行われます。
学生さんたちと各会派の県議によって秋田の未来について話し合う貴重な機会。私もパネリストとして参加させていただきます。
まだ空きがあるようですのでご参加下さい！もちろん大人も参加可能です。

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真6件を追加しました
2015年11月10日 ·

【産業観光委員会・県外調査（１日目）】
今日から山口県・島根県の視察です。本日は移動で半日以上、その後「水素先進都市」周南市を訪問しました。

アジア有数の電解コンビナートを擁する周南市(人口14万人)は、工場で大量に発生する水素ガスの利活用に市の将来を賭けております。出光興産やイワタニなど地元所在の大企業によるコンソーシアムと国・県・市が一体となり、「水素エネルギーで未来を拓く」という旗印の下FCV(燃料電池車)や定置用燃料電池を導入し、次世代のまちづくりにチャレンジしていました。

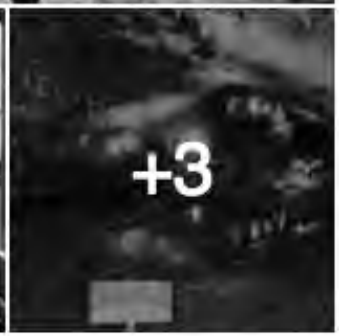
県という大きな単位で「この一点に絞る！」と断ずるのは難しいのかもしれませんが、冷静に地域の強みを見定め、明確なスローガンをもってそこに戦力を集中している自治体を見ると大きな可能性を感じてしまいます。

秋田県議会議員　鈴木健太さんが6 new photosを追加しました
2015年11月11日

【産業観光委員会・県外調査（２日目）】
①宇部興産の産業観光（CSRツーリズム）
　地元の推進協議会が大企業「宇部興産」(売上6,400億、従業員10,000名)の協力を得ながら行っている産業観光の取り組みを視察。全国最長32kmの私道「宇部興産専用道路」の走行体験、巨大な採石場などの観光パックもさることながら、明治30年に採炭事業から創業した宇部興産のストーリーに感動しました・・・
・沖ノ山炭鉱の炭は品質が良くなく、工業用炭としては勝負にならなかったので大阪へ持っていって家庭用に小売りしたところ大当たり
・地下資源に頼っていては将来がないので「有限な鉱業から無限の工業へ」との理念のもと鉄工所、セメント、化学など次々と他分野に進出して成長を続ける
・企業と地元の発展を同軸で捉え、「共存同栄」の思想で学校や病院など地域のインフラ整備も自前で行った
　あげくに美祢市の石灰石鉱山と宇部市のセメント工場を結ぶ約32kmもの専用道路を自前で整備してしまうという結構むちゃくちゃなことを実行し、グローバルに展開しつつも本店は宇部市という、本当に地域とともに歩む大企業なのです。

②秋吉台
　一時期は相当にぎわったんだろうなあ・・・という典型的な自然鑑賞型観光地です。鍾乳洞自体は本当に大規模ですごいのですが、周辺のお土産屋さんやホテルはかなり苦戦している様子でした。

③世界文化遺産・萩の城下町
　こちらは打って変わって「今が旬」な観光地で、活気にあふれておりました。城下町地区のすぐ近くに大型バスが多数停められる駐車場があり、大変利用しやすい。秋田の文化施設でも喧々諤々の議論がありますが、観光客からすれば大きな駐車場がマストであることを再確認しました。朝ドラの終了した後が正念場でしょうか・・・



秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真4件を追加しました
2015年11月12日 ·

【県外視察3日目】
今日は長距離バス移動と世界遺産の石見銀山でした。
16世紀から戦前まで採掘されていたこの銀山が世界遺産となった大きな理由は、「自然との共生」でした。たしかに「鉱山」のイメージとはほど遠い、樹木生い茂る普通の山なのです。つまり世界屈指の産出量を誇りながら、採掘ばかりでなく植林など自然環境に配慮しつつ鉱山経営を行ってきたことが特に評価されたということ。そんな昔からSustainability（持続可能性）を意識していたなんて、やっぱり日本人はすごい・・・

観光地としての作り方で関心を持ったのはパークアンドライド。当初は坑道の入り口付近まで車両の進入が可能でしたが、やはり自然環境への配慮が必要ということで少し離れた「世界遺産センター」にバスや普通車を駐車させ、そこからは徒歩、自転車、循環バスで観光させます。県議団は自転車ツアーでした（笑）

秋田県議会議員　鈴木健太さんがアルバム「青森私的視察」に13 new photosを追加しました。
2015年11月24日 ·

この連休は地域の各行事、タイヤ交換や冬囲いなどの作業の合間に、今東北でインバウンド一人勝ち状態の青森市を視察兼家族サービスしてまいりました。

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真8件を追加しました
— 場所: あきた美彩館
2015年11月29日 · Tokyo 東京都 港区(日本) ·

【東京アンテナショップ視察】
同期の新人県議4名で品川のあきた美彩館を視察しました。オープン約７年となりますが来店者数は微増中、飲食+物販の総売上額も順調に伸ばしております。
品川駅前のウィング高輪内という立地のおかげか、他県のアンテナショップとは異なる客層が来店するとのこと。近隣の高級住宅街からは『味が全然違う』ということで生鮮野菜を求めに来る固定客も増えております。一方で課題はやはり流通態勢。都会型ショップにちょうど良いロットで運ぶ段取りが容易ではないようです。
産業観光委員としては、この店舗を利用した観光PRにも力を入れていきたいと思います。隣接する大規模ホテルには外国人がいっぱいですが、外国語表記はこれからですね。

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真3件を追加しました
2015年12月7日 ·

【夢プレゼンテーション大会】
昨日は若者が自分の夢を大いに語るイベントに参加してまいりました。
まずもってこうした事業を実際に始める方、そして壇上に上がって人前で話してやろうとする方の勇気と行動力がすばらしい。

『何かにチャレンジした後の結果は2つしかない。成功か、学びのどちらかだ』

自分は安全地帯にいて居酒屋であれこれ語るだけでは現実世界には何も影響を及ぼしませんからね…
印象に残った学生さんの言葉がありました。『社会人と会話しててほぼ100%言われるのは、若いんだから失敗してもいい、どんどん挑戦しろ。ということですが、なぜ若いと失敗がいつもセットなのか？そもそもあなたは何かにチャレンジしてるのか？』

ちなみに発表者も観客も、約半数が県外出身者でした…

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年12月11日

【産業観光委員会①】
１２月議会では、４日間に及ぶ一般質問も終わり各常任委員会での審議へと移っております。私の所属する産業観光委員会では主に
＊観光文化スポーツ部
　①公共施設の指定管理者の指定
　②アンテナショップのあり方
　③秋田内陸線沿線住民意識調査
＊産業労働部関係
　④第２期秋田県新エネルギー戦略
　⑤秋田港発電所（仮）建設計画
などについて議論されました。

①公の施設の指定管理者について
　まず「指定管理者制度」とは、公共施設の管理・運営を公共団体だけではなく株式会社など民間の事業主体にも任せようというものです。つまり県民会館や県立体育館、田沢湖スキー場から県営住宅など本県にも実に多くの公共施設がありますが、これらを県直営ではなく、民間（といっても市や第３セクターが指定されることもあります）事業者を指定して管理してもらうわけです。
　県内１１８の「公の施設」のうち、指定管理制度を導入済みなのは８７施設。県から「指定管理料」を支払って運営させる方式、施設の利用料金によって運営させる「完全利用料金制」、それらの組み合わせである「利用料金併用制」の３つの方式があります。

　来年３月に期間（原則５年間）が切れる施設が多く、このたび次期指定管理者の募集・選定が行われました。産業観光委員会所管ではほとんどが無競争で従来と同じ指定管理者が選定されましたが、先般休業となった「秋の宮山荘」は同様の公共宿泊施設を再生させた実績のある県外業者があらたに指定管理者となったことが注目されます。
　委員会では、業績の振るわないオートキャンプ場の指定管理者である某自治体などについてかなり厳しい意見が出ておりました。その自治体は自ら赤字補てんをしながらなんとか存続を模索している状況なのですが、やはり八幡平オートキャンプ場の惨状を見てきた当委員会としては、また無策に存続→ジリ貧で休業ということを繰り返したくない思いがあります。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年12月13日 ·

【産業観光委員会②アンテナショップ】
②アンテナショップのあり方
　東京・大阪・福岡の３カ所にあった秋田県のアンテナショップ（大阪と福岡は北東北３県の合同店舗）ですが、大阪店が業績低迷のため今年３月末で閉店して８か月。今後のアンテナショップをどうしていくのか議論されました。

　大阪撤退の経緯と各店舗の状況について報告された後、業績好調な東京アンテナショップの運営方法について厳しい意見が・・・。つまり、委託業者が黒字なのであれば賃料等への補助は再検討をしていかねばならないだろうということ。私は常々、上手くいっているところにはどんどん資源を集中して飛びぬけた成果をめざすべきだと考える方ですが、さすがに県が委託業者のショップ単体での収支を把握しないで補助を続けていることについてはいかがなものかと思います。県当局は優秀だし頑張ってる人も多いと思うけど、公金の支出に関する認識の甘さは否定できません。

　ちなみに福岡店では秋田の日本酒が岩手・青森の両県を圧倒しているそうです。やはり！九州から秋田に引っ越してきて初めて日本酒のおいしさに目覚めた私としては何だかうれしい。これを突破口に秋田の食文化を発信強化していきたいですね。

　私は先日の視察に基づき、
・せっかくの立地と入客を生かし、店頭での観光PRも積極的にやるべきだ（現状ではほとんど見られない）
・外向けの看板などはほぼ日本語のみなので、英語や中国語の表記を増やすべきだ（周辺には品プリ・高プリや国際会議場もあり外国人がたくさん歩いている）
などと発言しました。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年12月19日 ·

【産業観光委員会③第２期新エネ戦略（素案）】
　繁忙期に入り、周回遅れの投稿になってしまいました・・
　県ではこの度、「国内最大級の新エネルギー供給基地と関連産業集積拠点の形成」を目指すため、H28~H37を計画期間とする新しい「第２期秋田県新エネルギー産業戦略」を策定します。

　特に重点を置いているのはやはり風力。現在２２万kWで全国第４位の発電量ですが、これを３年以内にほぼ倍の４３万kW、さらにH33には６２万kWまで伸ばしていこうという野心的な目標を掲げます。しかも４３万kWはもう実現が見えており、かつ６２万kWも計画が進みつつあるようなので期待大です。洋上風力が実現すればこの数字にさらに上積みされますので、本県の未来にとってかなり明るい材料でしょう。

地熱とバイオマスも資源量の観点からは秋田に「地の利」があると言えます。地熱は資源の偏在（山奥にしかない）、木質バイオマスは燃料調達の困難さなど、今後乗り越えていかなければならない課題がたくさんありますが、県での優先順位は高くなっております。

太陽光発電は固定買い取り価格が（１０kW以上で）２７円／kWhまで下がっており、メガソーラーの事業環境は厳しくなっています。県の素案では住宅用太陽光の導入促進に重点が移っているようです。

秋田県議会議員　鈴木健太
2015年12月30日 2:39

【平成27年ふりかえり】
昨日、県庁も御用納めとなりました。
初当選して以来約8か月間の議員生活について率直な感想を述べさせていただきます。

秋田市トップ当選という大きな期待を背負いながらここまで全力で頑張ってまいりましたが、政治・行政の経験が皆無の私は即戦力とはなりえず、すぐ秋田に大きな変化をもたらすことはできませんでした（あたり前ですが・・）。

ただ、有権者のみなさんにいただいた4年間で最大の仕事をできるように行動すべきだというのが私の基本方針であります。そのためにまずは、政治の世界の仕組みやルールなどを理解し、行政の意思決定過程をしっかり理解するための見習い期間として１～２年程度は、と考えております。早速にして「何も目立ったことをしていない」「すっかり影が薄い」というお声を聞くことも出てきたのですが（汗）、そこのところはご理解いただければ幸いです<(_ _)>

一般質問や総括審査といった場面も経験しました。今年の私の質問は県当局からすると初々しく組し易いものだったと思いますが、他の議員の質問なども見ていて、どんな質問が行政を動かせるのか、どの深さまで調べなければならないのか、といった点はイメージできました。来年は何月にチャンスをもいただけるかまだ不明ですが、「言って終わり」じゃなく県の施策に影響を与えられるような質問をしたいと思っています。

産業、社会福祉、農林水産業、教育、環境衛生、等々と膨大な県の業務の中で、自分の重点も定まりました。他県出身、海外居住経験を生かして「インバウンド（海外からの観光客誘致）」と、秋田の強みであり産業としてのボリュームにも魅力を感じる「新エネルギー」を軸にすえようと思っております。この２つの分野には本県を将来けん引していく潜在能力が十分にあります。責任感と希望をもって立ち向かっていくつもりであります。

知事をはじめ県当局と実際に接触し、巷で想像していたよりも皆さんよく考えていて、知識も豊富で、「できないのも無理はない」事情が色々あるのもわかりました。しかし私の出発点である「もはや秋田に現状維持という選択肢はない」とか「できない理由じゃなくできる方法を本気で考えればできる」といった信念は全く変わりませんでした。皆さんできないってすぐに言いすぎです。ただそれを説得して動かせるだけの力が私にはまだありませんでした。

なのでこれからも勉強、勉強です。
今後もどうぞよろしくお願いいたします。

ちなみに議員が年賀状を出すのは原則禁止ですのでご理解ください。

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真2件を追加しました
1月1日 18:58 ·

元旦といえば辻立ち…
イオンモール前にて新春のごあいさつからスタートしました。
昨年に比べると気候が穏やかでよかったです…
リアクションして下さった皆さんありがとうございました。今年もよろしくお願いいたします！！

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真6件を追加しました
1月6日 13:09 ·

秋田市消防団の出初式に参加しました。
参加…と言っても来賓でなく新入り団員として行進してましたので、ほとんど誰にも気づかれませんでした(- -;)

秋田県議会議員　鈴木健太

1月13日 19:04 [illegible]

【文化施設に関するアンケート】

昨年末、新たな文化施設についてアンケートを実施しましたので結果を報告しておきます。対象者は、Ｈ２５・Ｈ２６の２年間に秋田県民会館で約1600名以上の大規模イベントを実施した２１の企業・団体で、回答者数は１３（６１．９％）でした。

Ｑ１（場所：現行案に賛成か？）

賛成：５　　反対：５　　どちらでもない：３

※参考意見

・現地建替以外ならどこでも（空白期間が困る）

・駅連結がよい（駅東×２）

・郊外、外旭川など

Ｑ２（規模：現行案2000+800に賛成か？）

賛成：７　　反対：４　　どちらでもない：２

※参考意見

・800は児童会館、アトリオンと重複する×２

・4000必要　　・1800で十分

Ｑ３（駐車場のクレームを受けたことがあるか？）

ある：７　　ない：５　　不明：１

※参考意見

・「ある」のうち３者は「毎回」または「１００回以上」

・「ない」のうち３者は「以前は毎回」「以前はあった」

Ｑ４（現地建て替えを前提とした場合、近傍の駐車場が必要か？）

ぜひ必要：４　　あれば望ましい：８　　不要：１

※参考意見

・ニューシティ跡地はありえない

・機材搬入用のトラック１０台分は必要

Ｑ５（その他自由意見）

・解体、建設時の空白期間が大きな問題である×３

・収容人数は可変的にしてほしい×２

・駅東案なら再開発事業を生かせる

・現地案では著名アーティストの招聘は増やせない

・２ホールが空調でつながっていると別のイベントを同時開催できない

・立体駐車場または地下駐車場がよい

・結果的にホール数が減るのは困る

３　所　感

現地建て替えを前提とした場合、やはり駐車場に関する懸念が大きい。「クレームがある」と回答した団体の多くは県外客もターゲットとしたイベントの主催者である。一方「クレームはない」との回答にも「かつては多かった」と注釈をつけているものが多く、知事の「クレームはない」という認識は、常連客や県内客が現状に慣れた結果にすぎないことがわかる。

そもそも現地建て替えに反対するのも県外から広く集客するイベントの主催者であり、これには駐車場の問題だけではなく「空白の４年間」に重大な懸念をもっていることも理由のようである。たしかにその間秋田市内は約1200名の文化会館大ホールが最大という状況になり、吹奏楽などに青春をかける世代が一度も県民会館大ホール級の舞台で演奏せずに卒業してしまうこととなる。またプロモーターにとっても４年間の機会損失は非常に大きく、単純に「目先の４年間」と言い切れないものがある。

現地建て替えは、従来どおりのニーズを満たしていくには最善の選択と思える。しかしこの人口減少時代に200億円の県費を投じる施設である以上は、私たち若い世代としてはこれに何としても県経済の起爆剤としての役割を求めたい。そのためには「舞台設備と楽屋、そして駐車場さえ改善されれば、一流のアーティストを呼び必ず県外からも誘客できる」とする意欲的な事業者の意見を取り入れていただきたいと考える。既に存在するニーズを調和し、無難なものを残すという選択では県経済の発展は見込めないのではないか。

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真3件を追加しました
— 場所: 秋田拠点センター・アルヴェ
1月20日 17:30 · Akita 秋田県 秋田市(日本) ·

【あきた航空機産業フェアを見てまいりました】
あきた未来総合戦略の重点プロジェクトの筆頭に挙げられる航空機産業…現時点で本県が技術的に優位なわけではなく、まさに将来を見据えて産業構造の転換をはかろうとするものです。中長期的な成長分野において、高い技術と寡占的な認証制度により立地の不利を克服していこう！という狙いでしょう。
県内でもNadcap(航空宇宙産業における特殊工程作業に対する国際的な認証制度)取得企業が出てきています。目先の損得に惑わされず戦略的経営をしっかり行い、秋田を引っ張っていける企業をどんどん応援していきたいです。

秋田県議会議員　鈴木健太
5時間前 ·

【県政協議会が行われました】
県政協議会とは、議会のない時期も原則として月１回程度は行われる、県執行部と議会各会派との協議です。今日は下記の３点について知事から説明がありました。

①１月補正予算（案）
　今回の補正予算では、国庫補助事業である土地改良事業86億円や道路・橋りょう事業15億円など総額121億円余りが上程されます。このうち土地改良事業で秋田県が獲得した枠は北海道に次いで全国第2位の額であり、県選出国会議員に頑張っていただいたとの知事の弁でありました。

②あきた公共施設等総合管理計画（案）
　学校や行政施設など県内586施設について、老朽化や人口減少などを受け、中長期的観点で総合的・計画的に管理しようとするものです。限りある予算で効率よく安全性と利便性を保っていくため、基本的な考え方として「長寿命化」と「統廃合」を掲げております。3月までに総合管理計画を策定、それ以降に個別施設の計画を定めてまいります。これから何十年も秋田で暮らす世代としては甘いこと言ってるわけにいきませんので、しっかり精査していく所存であります。

③県内の経済雇用情勢
　11月分統計について報告がありました。有効求人倍率は1.10で高水準を維持。少子化による人材不足もあるのですが、数年前までは「少子化だけど求人はもっと少ない」状況だっただけに、少なくとも雇用状況は改善していると思われます。27年12月末現在における新規高卒者の県内求人数は3,624人で、前年同月比343人増加しています。一方で県内就職希望率が0.1%減となったのが少し気になります。

秋田県議会議員　鈴木健太さんが写真3件を追加しました。

2月4日 23:55 ·

【北海道・東北六県議会議員研究交流大会】

今年は盛岡で開催されました。

意外と県外の議員に会う機会は多くないので、秋田の広域観光連携を強化するためにも隣県の若手議員さんと積極的に交流を図ってまいりました。

分科会では「中小企業振興対策について」に参加しましたが、特に青森県の2つの取り組みにたいへん刺激を受けました。

①リレバン・レポート

http://www.pref.aomori.lg.jp/san…/shoko/kinyuukyougikai.html

県内中小企業2,500社に対する調査に基づき、金融機関や商工会など各機関の「地域密着度」を数値で評価・分析して公表するものです。融資や条件変更を断られた率（謝絶率）、納得のいく説明があった率など、各機関が本当に地域のために頑張っているのか！が数字で「見える化」されてしまうので、金融機関側も真剣にならざるを得ません。H20に23.1%だった謝絶率がH26には7.2%まで低下したそうです。

「融資補助の制度を設けたのに民間が借りてくれないからさ～」という他責の態度ではなく、どうやったら融資が活発化するのか真剣に考えたこのような取り組みはすばらしいと思います。

②A!プレミアム

http://www.a-pre.jp/about/

青森県とヤマト運輸の提携により実現した、スピード・保冷一貫輸送システム。青森～(陸送)～仙台空港～伊丹空港～那覇空港というルートにより、これまで東北に限られていた「翌日午前」エリアが西日本の大部分に広がり、東南アジアすらも翌日圏に取り込み、新鮮な農林水産品の販路拡大に絶大な効果が・・・すばらしくて泣けてきます。しかも「この仕組みを本県だけでなく東北一丸となって生かしてもらいたい」とのこと。これは生かすしかありません。

その他、企業の後継者不足が各道県の共通の悩みであり、事業承継支援策についても議論されました。私も司法書士として県境をまたぐ事業承継（M&A）案件を担当した経験から、必ずしも県単位ではなく東北6県共通のデータベース化など、広域連携になじむ分野なのではないかと提言しました。賛同してくださる議員さんも多かったのですが、「できれば北海道も仲間に入れて頂ければ・・・」との声が。すみません忘れていました<(_ _)>